

「臨床入門 臨床実習の手引き」

佐賀医科大学助教授
佐賀医科大学助教授
川崎医科大学講師
佐賀医科大学教授
国立大阪病院内科
祐愛会織田病院内科医長
佐賀医科大学・総合診療部
山口大学講師
桜町病院内科部長

福井次矢 編集
福井次矢
伴信太郎
幸田 弘
木戸友幸 執筆
西山雅則
白浜雅司
井上裕二
松井征男

臨床医学教育は大変難しい。欧米においては様々な試みがなされ、卒前医学教育の早い時期から、病棟および外来で患者に接して行うのが最も効率的であるということが明らかになっている。そしてその方法が多方面から研究されてきた。

わが国でもその方向に進んでいるが、この新しい医学教育の科学的システム作りに努力されている佐賀医科大学大助教授福井次矢先生を中心として、若い世代の諸先生によってこの本が書かれていることは特筆に値する。これら若い先生方の簡潔で内容のある記述を読んで、臨床に徹した老大家の箴言 (aphorism) ではない

かと思われるような部分も多く、感銘を受けた。また、私はこれら著者に強い影響を与えている北米の伝統的医学教育の幅の広さ、奥深さを再び感じた。

本書は診断学の本と言えるが、序文にあるように、今までの診断学は所見をいかに組み合わせれば疾患の鑑別ができるかに主眼が置かれていた。それに対して、本書の第1の特徴はそのような鑑別診断を行ううえの必須要素である臨床所見をいかにして得るかを示すことに重点が置かれていることである。この視点から書かれた本は、わが国には今までなかったと言ってよい。第2章のイン

タビューのやり方、病歴のとり方には心理学を取り入れた重要な項目が含まれている。

更にこの本は、臨床決断科学と臨床疫学を取り入れて、今まで経験や勘に頼っていて「医学は科学でない」と言われていた部分を科学に近づけようとする学問を紹介していることに特徴がある。もちろん POMR (Problem Oriented Medical Record) の解説もある。

また、「病棟実習と外来実習の差」という章もあって、臨床を勉強するのに重要な示唆を与えてくれる。この本で述べられているものは、臨床教育のカリキュラムに取り入れなければならない項目である。

小型の本ではあるが、学生が臨床実習に際して常に手許に置いて参考にできるように意図されたものであり、内容は豊富で示唆に富み、教科書として出色のものであると思う。学生だけでなく、若い医師、臨床教育に携る教官 (特に教授) にも推薦したい。

(宮崎医科大学学長)
木下 和夫

●A5変型 220頁 1991年
定価 2,987円(税込) 送料 300円

医学書院 刊 (☎ 03-3817-5657)